

4. パイロットテスト実施による評価・課題

- 事務手順
 - ・ 大きな混乱を生じることなく手順通り進めることができた
 - ・ がん検診申込受付後、各市町村へ受診状況等を確認するために照会を行うが、市町村により回答スピードが異なるため、直近の受診予約を取ることが難しい
 - ・ 各市町村指定の請求書様式がある場合、システムで作成できないため手作業となり、事務量が増える
 - ・ 事業所からの申込において、従業員の住所やがん検診の受診状況を、事業所担当者から確認してもらう必要があり一定のハードルが生じる
- 全体
 - ・ 八戸西健診プラザと個別検診の委託契約を締結している市町村に限定されるため、従業員の住所によりがん検診利用可否が異なり、不公平感が生じる
 - ・ がん検診申込者の住所別、つまり市町村別に対応方法（検診受付方法、請求書様式等）が異なると、検診機関において事務量が増えて負担となる



一定の課題は残るが、標準的な事務手順として横展開可能と評価する



モデル事業（令和8年度～）の役割分担案に反映